

令和3年度1学期終業式「訓話」(令和3年7月26日)

新潟県立長岡高等学校長

鈴木 勇二

〇 はじめに

始業式から3ヶ月と20日が過ぎました。春には薄緑色に膨れ上がり始めていた山々も、今は青々として、力強さを感じさせています。皆さんにとっては、この1学期はどのような期間だったでしょうか。主な行事を振り返ってみます。

4月6日には始業式、入学式があり1年生は長高生としての生活が始まりました。翌日の4月7日には対面式、例年であれば全校生徒で行っていたものが今年度は和同会執行部と新入生だけのものとなりました。4月16日は3年生理数科サイエンス課題発表会、1年以上かけて取り組んできたことを発表し、技科大の先生から講評をもらいました。4月下旬からの地区大会、5月下旬からの県総体では、昨年開催できなかった分も合わせ全力を出し切ったことでしょう。その努力が実り、北信越大会、インターハイへと駒を進めた選手もいます。6月9日には創立150周年記念も兼ねた体育祭がありました。感染対策から観客なしでの開催でしたが、競技種目やパフォーマンスなど、到る所に工夫が凝らされて、皆さん自身が楽しめる、大変な盛り上がりを見せた体育祭になったと思います。「かおなし」から「サンシャイン〇〇」への変身は驚きでした。7月20日はSSH生徒研究発表会、アオーレ長岡に全県のSSH校5校が集まってその研究成果を発表し合いました。準備にあたった理数科の皆さん、先生方大変ありがとうございました。

このような様々な経験の中で、皆さんは、クラスの団結や友達との絆を深め、新しいことに挑戦することへの緊張感や楽しさ、責任感、充実感など、人として成長していくために必要な多くのことを学び、感じたと思います。高校生活にとって、無くてはならないものです。ただし、それは全力で取り組むからこそ得られるもの。何事も前向きに、積極的に、失敗を恐れずに全力で取り組んでいきましょう。

さて、こういった行事が毎日行われているわけではありません。皆さんの学校生活の大半は、授業における学習活動です。その時間を大切にすることは、高校生活を大切にすることと同じです。一日一日の積み重ねを大切にしていきましょう。

1 応援ソング

皆さんは気持ちを切り替えたい時や、「よし、やるぞ」と自分に気合いを入れたいとき、いわば自分の「やる気スイッチ」をONにしたいとき、どのようなことをしますか。

身近な方法として、元気づけてくれるお気に入りの曲を聴くという方法があります。昔から応援ソングはたくさんあります。代表的なものをあげると岡村孝子の「夢をあきらめないで」(1987)やZARDの「負けないで」(1993)、SMAPの「世界に一つだけの花」(2003)、これらは皆さんが生まれる前の曲です。2000年代に入るとKiroroやいきものがかり、ゆず、GReeeeNなんかもなかなかいい曲を歌っています。あくまでも、私の好みですが。

人によって感じ方は違うことから、心に響く曲も違うでしょうし、同じ歌詞でも、心動かされるフレーズが異なることもあると思います。私が最近いいなと思う曲はYOASOBIの「群青」でしょうか。合唱のパートもあり軽快な曲で、好きなものに没頭する様子を描いているように感じました。その中で私が「いいな」と思ったフレーズは「何枚でも、ほら何枚でも、自信がないから描いてきたんだよ。何回でも、ほら何回でも、積み上げてきたことが武器になる。」という部分。諦めずに、求め続ける強さを感じます。

皆さんも、元気づけて欲しい場面に出会うと思います。友達や家族が元気づけてくれることも多いと思いますが、一つの方法として、自分の「応援ソング」を探してみてもどうでしょうか。

2 日本企業の海外進出

皆さんは「カリカリ」というお菓子を知っていますか？「カリカリ」は、県内企業「亀田製菓」が販売しているインド向け「柿の種」のことです。この「カリカリ」にまつわる話です。

人口が頭打ちとなり、食品業界が待ったなしの変革を迫られているなか、亀田製菓はこれまでの国内中心、米菓中心の事業から急速に会社のかたちを変えようとしているとのことです。その一つが、子どもから大人までなじみの深い「亀田の柿の種」をインドで売ろうというもの。そして、このインド進出をはじめとした食品事業や海外戦略のかじ取り役を担っているのは、副社長として食品事業と海外事業を統括する、インド人のレカ・ジュネジャさんです。

レカ・ジュネジャさんは、インドの大学院を卒業後、1984年に来日。名古屋大学大学院で食品工業化学を学び、博士号を取得。その後、入社した大手食品素材メーカーでは研究も営業もこなして世界を飛び回り、03年に副社長に就任。14年に移ったロート製薬でも副社長として海外

事業などを担い、20年に、亀田製菓に副社長として迎えられました。レカ・ジュネジャさんは研究者だった経験から、「研究のための研究はやめて、どんどん新商品を出していこう。それも、日本の1億2千万人だけでなく、世界の77億人を相手にしよう」と社員の目線を世界に向けさせいるそうです。そして次のようにも話しています。

「残念ながら、日本の食品企業はまだまだ世界に出ていっていません。もう少し世界の市場を狙っていった方がいい。世界に出ることは苦労があるし、そんな簡単に成功もしません。リスクも取らないといけません。でも、枠を自分で決めてしまってはダメ。枠を超えたことをやっていこう。」

亀田製菓をはじめとして新潟県内の企業も海外進出を進めています。本校の運営方針には「世界を舞台に、指導的役割を果たすことのできる人材を育成する」とあり、先生方は、その方針を念頭に皆さんの指導に当たっています。皆さんには、新潟にある、世界を相手に皆さんが活躍できる舞台(働く場所)についても調べてみて欲しいと思います。

(亀田製菓の海外進出については7月14日の「The Asahi Shinbun GLOBE+」(<https://globe.asahi.com/article/14393191>)を参照しました)

3 新型コロナウイルス関連

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は、一進一退を繰り返し、現在は第5波に入っています。新潟県でも、クラスターの発生がありここ数日、感染者が増えてきています。近隣の学校でもクラスターといえる感染が発生、学校閉鎖となり、大会に出られなくなった部活動もありました。大変残念なことでした。本校もいつそのような状況になるかわかりません。気を引き締めて、手洗い、うがい、マスク着用、黙食といった基本的な感染対策を行いましょう。

コロナウイルスに関して、もう一つ皆さんに理解して欲しいことがあります。それは、「感染した人は悪くない」ということです。感染で一番苦しむのは感染した本人です。もし身近な人が感染したとしても、決してその人を悪く言ってはいけません。温かい態度で接することを心がけましょう。

4 終わりに

感染対策は必要ですが、夏休み30日間、楽しみましょう。東京オリンピック、楽しみましょう。